

大島博光記念館ニュース

第25号

2013年4月20日

発行 大島博光記念館
〒381-1233 長野市松代町清野 2567-1
電話・FAX 026-278-1004
メール sonoko28@dia.janis.or.jp
<http://oshimahakkou.blog44.fc2.com/>



見てくれ この木を
嵐にざわめく木だ 人民の木だ
木の葉が 樹液から萌え出るように
英雄たちは 大地から湧き出る
そして 風が吹けば
木の茂みは いっせいに ざわめき鳴り
パンの種子は 熟れて
ふたたび 地に落ちる

それは 自由な人間たちの木だ
大地の木だ 雲の木だ
パンの木だ 矢の木だ
くびきの木だ 炎の木だ
われらの 暗い夜の時代の
嵐に荒れ狂う波は
この木を呑みこもうとする
しかし 力強いこの木のしるしである
そのマストは 揺れているのだ

さあ きみは その髪の毛のうえに
身をかがめ
よみがえった その光に触れるがいい
その工場の中に 手をさし入れるがいい
その工場では 勝ちとつた成果が
生き生きとして
毎日 光を伝播しているのだ
さあ きみの手の中の大地をもちあげ
そのすばらしさをわかちあうがいい
きみのパンと きみの林檎をとれ
きみの心と きみの馬をとれ

花冠の未来をまもれ
不吉な夜夜をともに見張り
あけぼのの輪を 見まもれ
星の降るような高みを望みながら
木をしっかりと支えろ
大地のまつただに伸びてゆく木を
(パプロ・ネルーダ「解放者たち」)

西島史子 朗読の会

5月18日(土) 16:00

- ・辻邦生「花のレクイエム」より
- ・大島博光・金子みすず・北原白秋 他

朗読と読み聞かせの実技講座

5月19日(日) 10:00 (要予約)



大島博光記念館 企画展

チリのキルト=アルピジェラに出会う

2013年5月3日～10月31日

*9月15日 高橋正明氏(元チリ連常任) 講演
"アルピジェラとチリの女性たち"



大島博光記念館開館5周年記念

神野優子・宮林陽子 ヴァイオリン コンサート

7月14日(土) 16:00

松代文化ホール



博光/静江物語 (6) チリ人民連帯とヨーロッパ旅行 (1970年代)



チリ連帯国際会議にて間島三樹夫氏(左)らと。右に日本の運動を紹介する写真パネル、後にアルピジェラが展示されている。(1978年11月)

一九七一年、パブロ・ネルーダがノーベル文学賞を受賞、翌年、博光は『ネルーダ詩集』(角川書店)を出した。一九七三年九月十一日、チリで軍事クーデターによりアジェンデ社会主義政権が倒され、軍による弾圧と殺戮が行われると、世界中でチリの人権と民主主義を支援する運動が起こった。一九七四年二月、チリ人民支援連帯日本委員会が創立され、大島博光はネルーダの縁で代表幹事の一人に就いた。チリ人民連帯の運動は文学、映画、演劇、美術、写真、音楽など多様な文化活動と結びついて多彩で広範な運動となった。博光は一九七八年十一月、マドリッドにおけるチリ連帯国際会議に出席し、日本の運動について発言した。

ゴヤの光と闇が いまも生きて
いる市(まち) マドリッド
ネルーダが、最初の血の叫びをあ
けた市(まち) マドリッド
ふたたび世界じゅうからひとび
とがやってくる
どんな距離をも越える 熱い連
帯をいだいて
そこにコルバランがいる アジ
エンデ夫人がいる
ピカソ夫人がいる ビクトル・ハ
ラ未亡人がいる
詩人アルベルティがいる エフ
トシエンコがいる
ニカラグアの婦人代表がいる
ベトナムがいる……
血塗られたチリ人民への連帯と
あいさつと
ファシズムへの怒りが、場内に熱
くみなぎる……
——マドリッド一九七八年十一月
——チリ連帯国際会議で——

初めて海外旅行

静江五〇歳の一九七四年八月、二人で初めてフランス旅行をした。念願だったシャルルビルのレストランを訪問し、ルーヴル美術館を訪れ、ルーヴル美



チリ連帯国際会議にて発言

術館、オランジェリー美術館、グ
ラン・パレ美術館やベルサイユと
フォンテーヌブローの宮殿、中世
のゴシック寺院等を見て回った。
対独レジスタンスやパリ・コミ
ューンの史跡、エリュアールら敬
愛する詩人の墓を訪れて大きな刺
激を受けた博光は「ヨーロッパ詩
集」を書く。
「パリの働く婦人たち」
静江はフランスでふれた女性の
働く姿を自分の生き方に重ねてエ
ッセイを書いた。「今まで娘によ
く『お母さんは二二〇%も労働を



パリ・シャイヨー宮にて (1975年)

しつづけてきたのだから五十を過
ぎたら静かな生活に入って読書と
創作の生活をしたら」と言われて
きました。フランスに行つた一
番のお土産は、年齢に関りなく、
何才までも能力に応じた生産の場
に加わり、労働し、勉強してゆこ
うと云う果しない希望でした。
「その後も夏休みをとってイタリ
アやスイスを訪れ、絵画や音楽、
登山を楽しんだ。楽しかったヨー
ロッパ旅行の思い出を博光は詩
「きみはわたしを連れて行つてく
れた」に書いています。

きみはわたしを連れて行ってくれた

大島博光

きみは わたしを連れて行ってくれた
パリの東駅から シャルルヴィルへ
ランボオの生地と 博物館を訪れるため
詩人が歌ったままの 駅前公園の音楽堂よ
辺境の町の 紅すももの街路樹よ
ムーブの岸べの水車小屋よ 資料館よ
きみは わたしを連れて行ってくれた
モン・ブラン山塊のエイギユ・デュ・ミデイへ
シャモニイからケーブルで 三八四二メートル
はるか右手の高みに 首峰のドームがかすみ
聳え立つ針峰群の下 雪原をすすむ
登山家の隊列が 豆粒のように見えた
さらに イタリア側のクールマイユールへと
水河の上をケーブルは わたしらを運んだ
モンテ・ローザが うすバラ色に煙っていた
きみは わたしを連れて行ってくれた
ヴェローナの 巨大な古代競技場の石の席へ
巨大な屋外舞台での フェスティヴァルへ
きみは わたしを連れて行ってくれた
めいめい手にした百千の蠟燭の火の揺れるなか
イタリアの夏の夜空のしたで 始まった
幻のようなオペラよ 「トウランドット」よ
きみは わたしを連れて行ってくれた
「花のドーム」から ウフィッツ美術館へ
わたしは 夢の「プリマヴェーラ」を見た
そしてアルノ河に面した二階のテラスから
河いっばいに群がる 緋鯉の群に見とれた
——このつぎには 釣竿を持って来よう……
すると きみがやってきて責めたてたものだ
「だめじゃないの フィレンツェにきてまで
ルネッサンスを見ないで 鯉ばかり見ていて」
きみは わたしを連れて行ってくれた
とても遠い 峠のあなたの光と影の国へ
とても高い 眼もくらむような夢の世界へ
(詩集『老いたるオルフェの歌』)

バシックさん(チリ出身 人権活動家)が講演 ”アルピジェラと詩”——チリ現代史の語り部

世界中でアルピジェラの展覧会を開いているロベルタ・バシックさんが大島博光記念館のアルピジェラを調査するために来日し、二月十六日「アルピジェラと詩」と題して講演しました。共同で作業している東北学院大学の酒井朋子先生が対談と通訳をしました。

チリのネルーダ賞詩人ハイメのアルピジェラに捧げる詩「女は夜 出かけた」をスペイン語で朗読。ついでプロジェクトを使って講演……チリの民俗工芸として百年の伝統をもつアルピジェラだが、七十三年九月の軍事クーデター以降、貧困と政治的抑圧を告発する手段として貧困地区の女性たちが作るようになった。女性たちは作業所に集まり、輪になって作りながら、辛い経験を共有し、支えあった。九〇年、軍事独裁が終わった後は、独裁中に起きたことを忘



チリの女性たちが実際に作っている様子をビデオ視聴(高橋正明氏が撮影)

れたはいけないとアルピジェラに描いた。大島博光記念館のアルピジェラはチリ人民連帯日本委員会の高橋正明氏が一九八九年、チリを訪問して人々と交流した際に購入し、日本に持ち帰ったもので、日本の支援への感謝とメッセージが込められている点で特別の価値がある。これを保存・活用する活動に参加して欲しい。……

バシックさんの話をお聞きして

玉木信子

バシックさんのお話をお聞きし、アルピジェラはチリの軍事政権下、夫や息子たちをなくした女性たちがチリの実態を伝えるために、力を合わせて製作しているものだということがわかりました。

そこには、誰にも平等にふりそそぐ太陽の光が描かれ、自分たちの生活の場である家やアランダスの山なみが描かれ、働く人々らが描かれています。軍事政権下、悲しみや苦難を体験した彼女たちなのに、一枚一枚の色あざやかな布や一針一針には、悲観的なものは感じられず、抑圧に負けないとする彼女たちの力強さや優しさ、明るさまで感じられるのです。それは、民主主義や自由、平和を願い、人間らしく生きようとする女性たちの連帯する力があるからでしょう。最後に、バシックさんといっしょに



合唱団メンバーが参加してベンセレーモスを合唱



「孤独なクエカ」を紹介

企画展 チリのキルト=アルピジェラに出会う

2013年5月3日～10月31日

アルピジェラは、もともと民衆の暮らした、同じ問題や苦しみをかかえるらしの様子を描くチリの伝統的なタペストリーでした。一九七三年にピノチェトによる独裁体制が始まる前、抑圧状況におかれたボブラシオン(貧困地区)を中心に、アルピジェラ作りの新しい動きがあらわれます。貧困地区の女性たちは、じゃがいもや小麦粉の袋を裏地とし、古着や使い古しの端切れも用いながら、自分たち自身の経験を描きはじめます。政治犯の嫌疑をかけられ行方不明になった家族について訴えるものや、貧しい生活のなかでの助け合いを描くものなど、いずれも日々の生活と経験に根ざしたメッセージに満ちています。

アルピジェラは海外の支援団体に販売され、作り手のわずかながらの生活の足しとなってきました。ま

(酒井朋子 東北学院大学)

- 大島博光記念館展示室 入場無料
- 開館時間 10:00～17:00
- 休館日 月曜日(休日の場合は火曜日)
- *9月15日15:00 高橋正明氏講演
”アルピジェラとチリの女性たち”

「ピノチェト・ノーの勝利」(1990年ごろ)



映画「レ・ミゼラブル」1957年版と2012年版



リュクサンブール公園を散歩するコゼットと、見初めるマリユス(1957年版)

輪になって会場の皆で「ベンセレーモス(われらは勝利する)と声高らかに歌い、心ひとつになりました。歌いながら、遠くチリの国の女性たちの運動に思いをはせ熱くなってきました。

今の日本は、憲法九条の問題をはじめ、大震災復興、原発など様々な問題が山積みしています。人間らしく生きることでできる社会を願って、声をあげ、あらゆる人々と連帯して、私なりにがんばっていきましょうと思われた一日でした。

『狼煙』(七号より)

二人に看取られ、ジャン・バルジャンは「愛が最も大切だ」と臨終の言葉。神父の慈悲で人間愛に目覚め、それを奉じて生き抜いたことに満足したのだろうが、ではバリエードに散った若者たちは何だったのか? 釈然としない。

最近公開された「レ・ミゼラブル」(二〇一二年)はミュージカルの映画化で面白かつた。臨終で天国に向かって歩むジャン・バルジャンを闘い散ったバリエードの若者たちが「民衆の歌」を歌って迎える。闘う者の歌が聞こえるか、鼓動があのか、ドラムと響き合えば、新たに熱い命が始まる。



「共同なべの食事を待つ子どもたち」

“アンネのバラ”咲く庭園

矢野 富子

庭でバラの手入れをしていると、記念館を訪れた見ず知らずの方が寄ってきて「アンネのバラはどれですか？」と時々尋ねられる。庭園の中の2百種を超える品種の中からこの”アンネのバラ”だけを名指しでこられたのだから、まだ蕾であったり、時期的に散ってしまった後の時は本当に申し訳なく思ってしまう。



読者の皆さんでバラの品種名をあまりご存じない方でも、“アンネのバラ”でもしかしたら「アンネの日記」に関係あるバラかしら？と思われる方は、かなり勘の鋭い方ですね。そうなんです。”アンネのバラ”は1960年にSouvenir d'Anne Frank（アンネ フランクの形見）と命名され、世界中で「アンネの日記」に感動した人々やバラを愛する人々、アンネの意思を受け継ぐ人々の手によって広がったバラです。

アンネのバラが最初に日本にやってきたのは1972年といわれています。それから今年で40年余り経ちますが、当記念館のバラも、やはりアンネの意思を受け継いだ地元の中沢忠実さんから大切に贈られたものです。

来訪者に人気のアンネのバラですが、現在庭園に5本の開花可能なバラが植えられていますので、お越しの際は是非じっくりと観賞なさってください。さらにその他にも現在育成中のアンネのバラ3本も出番を待っています。今後、アンネのバラの由来を特別に書き記した案内板のようなものを作り、このバラのもつ歴史的な背景についても多くの皆さんに知っていただければと思っております。



大島博光記念館開館5周年記念

神野優子・宮林陽子

ヴァイオリン コンサート



2013年7月14日(土曜) 16:00開演
松代文化ホール 前売り券3,000円

- 2つのヴァイオリンのためのソナタ ヴィヴァルディ
- タイスの瞑想曲 マスネ
- セレナーデ シューベルト
- トロイメライ シューマン
- ふるさとの童謡—みかんの花咲く丘、緑のそよ風、里の秋
- リベルタンゴ ピアソラ
- 2つのヴァイオリンのためのソナタ バッハ
- その他

大島博光記念館バラ祭り 6月9日(日)10:00~16:00

<日誌>

- 1月12日 八町敏男詩集出版を祝う会/新年会
名画鑑賞会「ラ・マンチャの男」
- 1月20日 バラ剪定講習会
- 1月26日 うたごえ喫茶
- 2月9日 名画鑑賞会「少年時代」16名
- 2月10日 矢野さんバラ作業
- 2月10日~17日 バシクさん・酒井先生滞在
- 2月16日 バシクさん講演「アルピジェラと詩」
- 2月23日 うたごえ喫茶 27名
- 3月2日~3日 矢野さんバラ作業
- 3月9日 名画鑑賞会「レ・ミゼラブル」11名
- 3月23日 うたごえ喫茶 28名
- 3月31日 長野詩人会議「狼煙」発行
- 4月13日 名画鑑賞会「モダン・タイムス」



長野詩人会議機関誌「狼煙」第71号が3月末に発行されました。(500円)

* 西島史子 朗読の会を開きます

5月18日(土)16:00(友の会総会のあと)

- ・大島博光/詩・金子みすず/詩
- ・北原白秋「五十音の歌」
- ・辻邦生「花のレクイエム」より
- ・原田宗典「ぜつぼうの濁点」



* 朗読と読み聞かせの実技講座

5月19日(日)10:00 募集人数10名

・実技を中心にするので、練習したい作品をご自分で選んで持参して下さい。長い作品は一部でも結構です。

＊西島史子さんは東京在住の朗読家。大島博光とは一九七八年五月の「ネルーダの会」から親交があり、吉祥寺「ともしび」で詩の朗読会をしたり、服部伸六の出版記念会に博光の名代として出席。アラゴン研究家の川上勉先生(立命館大学名誉教授)を博光に紹介しています。博光記念館がオープンしてからは毎年訪れて、心に沁み朗読の世界をプレゼント下さっています。

大島博光記念館友の会総会にご参加下さい

5月18日(土)15:00~15:45

友の会会費納入とカンパありがとうございました

1月から4月17日までに206名の方から友の会会費を納めて頂き、42名の方からカンパ(合計189,050円)が寄せられました。ありがとうございました。
*書籍購入等にも下記口座をご利用下さい。

<郵便振替>
口座番号 00560-2-59916
加入者名:大島博光記念館をつくる会

実物に触れて胸が一杯です

—東京からアルピジェラを見に来ました



バシクさんが書いた日経の記事を見て友人と訪れた後藤さん、「本物のアルピジェラに触れ、作った女性の気持ち伝わってきた、涙が止まらなくなった、皆が支えあつて逞しく生きてきたことを知り生きる力ももらった。展覧会を開く時はぜひ来ます」

<スケジュール>

5月3日~10月31日

企画展:チリのキルト=アルピジェラに出会う

5月18日(土) 15:00 友の会総会

16:00 西島史子朗読の会

5月19日(日) 西島史子朗読よみかかせ実技講座

6月9日(日) 記念館バラ祭り

7月13日(土) 松代文化ホールにて

記念館5周年 神野/宮林ヴァイオリンコンサート

9月15日 講演「アルピジェラとチリの女性たち」

高橋正明元東京外国語大学教授、元チリ連帯任

10月 柳沢さつきさん講演会

「信州モンパルナスの詩人たち」

11月 秋のバラ祭り

12月 クリスマス会

定例:詩を読む会、名画鑑賞会(毎月第2土曜日)

うたごえ喫茶(毎月第4土曜日)

【おことわり】記念館ニュース24号でお知らせ

しました「私とピカソ——大島博光のピカソ鑑賞」

は本年は中止し、別の機会に行うこととします。

【編集後記】
■アルピジェラの報道を見て大勢の方が訪れています。女性が圧倒的。バシクさん・酒井先生の強力なバックアップでアルピジェラ展を開きます。元気な人形たちに会いに来て下さい。
■バシクさんはとても活動的かつ打ち解けた方で、交流会でも酒井先生のペラペラ通訳で盛り上がりました。菜食主義者ときいて、お昼のメニューをはなや店長が悩みましたが、おソバがOK、ベーコン抜きのガレットがベリーグッド、野菜の天おら、おやきも喜んでくれました。
■「松代大本営を歌う組曲—光の種子をまくとき」の楽譜が新しく完成しました。地下壕と合わせて記念館見学の良い機会になればと大期待。
■バラ園のバラは矢野さんとバラボランティア連の熱心な手入れで元気に芽吹いています。入り口花壇は新株を入れて大幅衣替え。五月下旬からのシーズンをお楽しみに！